



皆さんは、絵本は好きですか？絵本には沢山の魅力が詰まっています。今年度は、絵本に関する書籍を活用しながら《絵本について》ちょこっとお伝えしていきたいと思います。



5月の絵本紹介



『てんてんてん』

わかやま しずこ作 福音館書店

この時期、外遊びで夢中になるのが虫探し。この絵本には、てんとう虫、ちょうちょう、かたつむり…と身近な虫が登場します。「てんてんてん。てんとうむし。」「ぐるぐるぐる。かたつむり。」とリズムカルな文章と、大きくハッキリとした絵で、小さいお子さんも楽しめます。

『おべんとうばこのうた』

さいとう しのぶ作 童心社

「これっくらいのおべんとばこに♪」で始まる人気の手遊びの絵本バージョンです。ピクニックを楽しめるこの時期におすすめの絵本です。歌いながら、絵も楽しめますよ。歌うだけでは気づきませんでしたが、絵を見ると、意外と渋めな大人のお弁当だったのね、と発見したりします。

【絵本の中の言葉は、日常の会話とは違います。言葉の使い手が選びに選び抜いた言葉です。しかもそれを皆さんの言葉として伝えているのです。絵本の中の言葉は全部読み手のものなのです。読み手の声で読み手の言葉として子どもに伝えられていくのです。】

～『絵本が育てる子どもの心』松居 直・日本キリスト教団出版局より～

どれだけ素晴らしい絵本があっても、開かれずにそこにあるだけでは意味を成しません。その絵本を開き、大人が心を込めて読んでこそ、子どもに（もちろん大人にも）良い影響をもたらすと思います。この本の筆者は「読んでもらった記憶が楽しければ楽しいほど、一生忘れない」とも書かれており、私自身も同意見です。私が小さい頃に、母に読んでもらったお気に入りの絵本達は、今でもページを開くと、その当時の雰囲気や母の声（もちろん若い声です！）や、読み方が鮮明によみがえります。何十年経ってもです。それだけ、心の深いところの記憶に残る、という事ですね。（そして、その記憶がよみがえると、母との繋がりも感じ嬉しくなります。）今、子どもと楽しむ絵本の時間が、長い年月に渡って子どもの心に残るかもしれない、と思うと感慨深くありませんか？

